

虹の架け橋に

平成 17 年度 上海日本人学校(虹橋校)派遣
岡山市立芥子山小学校 井原 進一郎

上海への派遣が決まり、情報誌やインターネット等で情報収集をしました。その中で必ず触れられている情報。それは、中国人のマナーの悪さでした。情報誌などで先入観をもった私は、上海に到着してからもそういう視点で中国の人を見てしまう面がありました。タクシーに乗ると、カーチェイスを繰り広げるかのような無理な割り込みや大音量のクラクション。地下鉄やバスに乗ろうとすると、列への強引な割り込み。実際にマナーの悪い場面に出くわすことも多々ありました。



ある日、息子と一緒にバスに乗って出かけることがありました。バス停に向かって歩いていると、後ろから一人の中国人に声をかけられました。私が落とした腕時計を拾ってくれたのです。さらに、バスに乗ると人でいっぱい。何回か乗り

継ぎをしましたが、毎回ごく自然に席を譲ってくれました。派遣期間中、バスや地下鉄に何回も乗りましたが、子供を連れているときに席を譲ってくれる確率は何と100%でした。上海は子供や子供連れに本当にやさしい街だったのです。この件は、私にとっては驚きであり、その地の本当の魅力や良さは、実際にその地の生活に入ってみないとわからないということを教えてくれる出来事でした。



3年間の派遣生活で感じた上海の魅力。まずは、非常にエネルギッシュな街だということです。日本では十年一昔と言いますが、上海では一年一昔、いや半年一昔と言えるかもしれません。すさまじいスピードで街が変わっており、あっという間に高層ビルが建てられたり、街の様子が変わってしまったということがよくありました。通勤ラッシュ時には、自動車と自転車とバイクが一緒になって道路を埋め尽くすなど、新しいものと古いものが混在しながら成長していていることも上海のエネルギーを感じる場面でした。

また、私たち日本人をやさしく受け入れてくれる大らかさも上海の魅力の一つだと感じました。不慣れな中国語で買い物をする私に、身振り手振りで伝えようとしてくれる店員や、友人の落とし物の件で出向いた警察署で筆談で対応してくれた警察官など、中国の人の優しさ・おおらかさにもたくさん触れることができました。

上海日本人学校の校歌に「さあ 架け渡そうよ 色鮮やかな虹の橋」という歌詞があります。派遣期間中に感じた上海の魅力や良さを少しでも伝え、中国と日本との虹の架け橋になれたらと考えています。